

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あすひ		
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント等を通して、障害特性や発達等を踏まえながら、活動を検討している。一人ひとりに応じた、個別課題を設定し提供を行っている。 ・言語療法、運動療育等、専門性をもった職員、外部講師により提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に関して、定期的かつ必要に応じて、話し合いの場を設け、見直しを行っている。 ・専門的な取り組みの情報発信を行い、参加者を増やしていく。
2	遊戯棟の活用(運動療育の充実等)	<ul style="list-style-type: none"> ・天候に左右されず運動療育(リトミック、サーキット、外部講師による運動療法等)の提供をできている。 ・定期的、長期休暇休暇時には、遊戯棟での運動、遊びの機会を設定している。 ・行事等、広いスペースを活用したプログラムを設定できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からも、遊戯棟での運動療育を期待されている。継続していくとともに、運動療育のメニューの検討、見直し(充実化)を進めていく。 ・遊戯棟はあるが、活用は限られており、行事や活動、余暇の過ごし方等で、有効活用できないか検討していく。
3	小学生～高校生の幅広い年代が一緒に過ごし、関わりや交流を持つ機会がある	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生を手本にする、下級生を手伝い教える等、世代間でのやり取り、交流する機会が持てている。 ・関わりや交流が持てる、深まるように、必要に応じて職員が仲介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、職員が仲介をしながら、関わりや交流が持てるように配慮していく。 ・日課や課題の提供、行事の企画等をしてしながら、様々な場面での関わりや交流が持てるように設定していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信力	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や行事等を法人のホームページで公表している。昨年度よりは頻度を高められたが、月1回程度になってしまっている。行事がメインとなっており、日々の活動等の様子はあまり、発信できていない。 ・保護者に対して、事業所の様子や環境、利用時の様子等を十分に伝えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事だけでなく、活動等の発信も増やしていく。 ・更新時には、お知らせをしていく。 ・情報発信方法の検討を行っていく。 ・事業所の開放、保護者参加の行事等を検討していく。
2	活動、行事等の固定化	<ul style="list-style-type: none"> ・活動(特に集団活動)や行事等が固定化されてしまっている。 ・地域に出ていく、関わる機会、行事等があまり持てていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動の見直しを行っていく。新しい活動を模索すると共に、継続するにあたっては、内容の変更が必要ないか検討し、改善をしていく。 ・遠足や買い物等、地域に出る、交流が持てる外出や行事等の検討をしていく。
3	療育スペースの狭さ	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にデイルームで過ごしてもらっているが、人数によっては狭さがある。 ・個室などもあるが、数に限りがあり、職員の配置によっては十分に活用できていない。 ・遊戯棟や2階もあるが、職員配置等も踏まえると、活用ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数に応じて、職員や利用者を分けて安全に過ごせる環境を整えていく。 ・遊戯棟での活動を増やすなどして、有効活用していく。 ・個室の活用方法として、少人数グループでの活動も取り入れ、利用者の分散を図っていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
あすひ		2026年3月19日			
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・遊戯棟があることが事業所の強みとなっている。天候等に左右されず、運動の機会が提供できる。 ・個室を活用し、個別課題や一人で過ごす時間を作っている。 ・言語療法は2階で落ち着いた環境を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生～中高生が一緒のスペースであり、支援が難しいことがある。 ・利用人数が多い日であると、スペースの狭さがある。遊戯棟の活用などの検討は必要である。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・配置の段階で調整をしている。 ・週2回、言語療法士による療育の機会を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員に対する職員配置は適切であるが、利用人数が多い日だと、もう少し職員が必要と感じられる場面がある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的情報提供を行い配慮している。 ・危険な箇所、場面では職員が付き添い、見守り対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室とデイルームが繋がっており、こどもによっては分かりづらさがある。 ・玩具等、こどもたちが気になるものが視界に入ってしまうことがあり、配慮は必要である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒、清掃は毎日、定期的の実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品等の整理整頓、清掃や消毒を継続しての実施が必要である。 ・個別室とデイルームがドア1枚であり、音などが聞こえ集中できない様子はある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別室、場所を使用できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数人が希望する場合、場所を移動してもらおうなどの配慮は必要である。 ・個室の設備として、防音対応があればより使用しやすい。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・課の会議、打ち合わせ等で意見交換を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な目標設定、振り返りまで十分にできていない。期限やゴールを意識した設定が必要である。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの評価表を配布している。 ・ホームページに公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に対しての改善が十分に実施できていない。 ・保護者に対して、評価や改善についての報告、周知が必要である。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・課の会議、打ち合わせ等で意見交換を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの情報共有、業務改善の為、定期的な会議、ミーティングの設定が必要である。 ・改善の為にどうするのか、具体的な実施まで繋がられるような体制が必要である。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	7		<ul style="list-style-type: none"> ・未実施。必要に応じて、検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修を実施している。 ・あすなると合同会議で研修を実施している。 ・Eラーニングで職員が自主的に学べる場がある。 ・法人主催の研修への参加を行っている。 ・職員が希望する外部研修に参加できる様にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだことの共有、どう支援に繋げていくのかの検討が必要である。

11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	・ホームページに公表している。	・保護者などへの周知が必要である。 ・定期的な見直しが必要である。
12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	・適切なアセスメント、ニーズの把握を行い、作成できるように心掛けている。	・継続して、適切なアセスメント、ニーズや課題を分析し、作成していく必要がある。 ・本人、保護者からの細やかな聞き取りが必要である。
13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	2	・支援に携わる職員が共通理解のもと、検討に繋がるように配慮している。	・理解のズレの修正、適宜の共有ができるようにしていく必要がある。
14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1	・職員間で共有した上で、支援を行っている。	・認識のズレ、共有が不足する場合もあり、都度、話し合い、修正の必要がある。
15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	・インフォーマルなアセスメントを実施して観察をしている。	・現在は、フォーマルなアセスメントツールは活用していない。必要に応じて、検討していく。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	2	・ガイドラインに則り、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」等、支援内容を踏まえ、具体的な支援内容を設定できるようにしている。	・適切なアセスメント、ニーズや課題の分析を通じ、より具体的な支援内容の設定が必要である。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	2	・担当者が活動プログラムを立案し、意見交換しながら修正、改善を行っている。 ・個別支援計画を踏まえながら、個別での活動の設定を行っている。	・継続して、チームでの活動プログラムの立案をしていく必要がある。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2	6	・様々な活動プログラムを提供できるように配慮している。	・固定化されている部分もあり、発達や課題に応じた、見直しは必要である。 ・遊戯棟を積極的に活用する等、活動の種類や幅を広げることは必要である。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	1	・個別活動と集団活動を組み合わせ支援を行っている。 ・本人、保護者の希望に応じて言語療法の提供を行っている。	・内容に関しては、適宜、見直ししていく必要がある。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	1	・支援開始前に打ち合わせの機会を設定している。 ・必要に応じて、引継ぎノートも活用し、情報の共有を行っている。	・継続しての実施が必要である。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	6	・退勤時間が異なり実施はできていない。引継ぎノートを活用し共有を図っている。 ・翌日の支援開始前の打ち合わせ活用し、共有している。	・継続しての実施（支援開始前の打ち合わせ、引継ぎノート）が必要である。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	・支援目標に即しながら記録を取っている。	・支援の検証、改善に繋がるよう、より積極的に活用していく必要がある。 ・詳細な情報の記録は必要である。
23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1	・定期的なモニタリングの実施、計画の見直しを行っている。	・本人、保護者の意向、思いを汲み取り、踏まえていく必要がある。 ・十分に時間をとり、機会を設ける必要がある。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	1	・意識を持ちながら、支援を行うように配慮している。	・都度、職員間での共有していく必要がある。
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	1	・当番、過ごし方、おやつを選ぶ等、自主性や選択に繋がるように配慮している。	・固定化されてしまっているものはあり、自己選択、自己決定に繋がる環境の見直し、再設定は必要である。 ・必要に応じて、視覚的な情報提供、選択肢を絞る等、一人ひとりに応じた配慮は必要である。

関係機関 や保護者 との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	・児童発達支援管理責任者が主に参画している。 ・事前に職員からの聞き取りを行い、参画している。	・場合により、管理者や児童指導員の参画は必要である。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	5	・保護者を通じて、連携を行っている。	・必要に応じて、都度、連携していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	2	・送迎時やメール等で情報共有、連絡調整を行っている。 ・担当者会議を適宜、行っている。	・継続して、連絡を密にして調整していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	4	・必要に応じて行っている。 ・保護者を通じて、情報共有をする場合がある。	・必要に応じて、連携を図っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	・移行がスムーズにいくように情報提供を行っている。	・継続して、情報提供をしていく必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	7	・必要に応じて、相談員とも連携を取りながら、機会を設けている。	・必要に応じて、連携を図っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	8	・コロナ前は児童館で交流はあったが、機会がなくなってしまっている現状がある。	・必要に応じて、検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	8		・協議会等への参加を検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・送迎時を中心に、情報交換共有を行っている。	・定期的に話し合いの場の設定が必要である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		・具体的な提供は行っていない。必要に応じて、検討していく。
保護者 への説明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	2	・内容については、児童発達支援管理責任者から説明を行っている。 ・玄関に「利用の手引き」ファイルを設置し、閲覧できるようにしている。 ・支援プログラムはホームページに公開している。	・変更時には、ファイルやホームページの更新、丁寧な説明、周知が必要である。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	・本人、保護者の意思を尊重できるように、確認する機会を持っている。	・利用時、送迎時での確認が多く、ゆっくりと話を聞く場の設定は必要である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	・支援内容の説明を行い、同意を得ている。	・継続して、丁寧な説明、場の設定が必要である。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	3	・必要に応じて、行っている。	・必要に応じ場の設定、助言や支援を検討していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	8	・事業所の開放を検討していたが、実施まで禁じられていない。	・保護者会等の開催はできていない。必要に応じて、検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	・苦情、ご意見があった場合、管理者への報告、体制の整備を迅速に対応している。 ・苦情は記録に残し、改善に繋げている。	・継続して、迅速な対応をする必要がある。 ・すぐに改善が難しい場合、各関連機関も交えながら、検討をしていく必要がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	1	・行事、活動等を法人のホームページにブログとして掲載している。 ・定期的にあすび便り、法人のお便りの発行、配布を行っている。	・行事、活動等、ブログの更新頻度を高めていく、保護者への周知は必要である。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・個人情報保護に対する基本方針に基づいて、個人情報の保護に努めている。	・継続して、方針に基づき取り扱っていく必要がある。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・障害特性に応じて、配慮を行っている。 ・状況に応じて、口頭や文面だけにならないように配慮を行っている。	・状況や障害特性に応じた、配慮を随時、検討していく必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	・コロナ以降、機会は減っている。	・地域の方との交流が持てないか検討していく。来年度で開設から10周年であり、契機にしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	3	・安全計画は、玄関に「利用の手引き」ファイルを設置し、閲覧できるようにしている。 ・毎月、避難訓練（火災、地震、水害、防犯）を実施している。実施後は、保護者に報告を行っている。 ・感染症についての案内を保護者に配布している。	・保護者に十分に周知されておらず、アナウンスをする必要がある。 ・新年度、また、適宜、職員や保護者に周知していく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	・業務継続計画の策定、避難訓練を実施している。 ・法人での訓練、連携を図っており、非常災害の発生に備えた、訓練、備蓄等を行っている。	・継続して、訓練や見直しを実施していく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	2	・初回面談、アセスメント等での聞き取り、把握を行っている。 ・服薬等の変更がある場合、保護者からの報告をして頂いている。	・必要に応じて、通院等の情報共有を行っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	3	・初回面談、アセスメント等での聞き取り、把握を行っている。	・必要に応じて、通院等の情報共有を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	2	・安全計画の作成、掲示をし、避難訓練や研修等を実施している。	・適宜、見直ししていく必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	・安全計画は、玄関に「利用の手引き」ファイルを設置し、閲覧できるようにしている。	・内容や実施状況の周知をしていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・発生時には、迅速に報告、再発防止に向けた方策の検討を行っている。 ・必要に応じて、見守りカメラを活用し、状況や原因の把握に繋げている。	・継続して、実施していく必要がある。 ・保護者に対して、経緯や原因、対応について丁寧に伝えていく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	・事業所内、あすなろとの合同会議、法人内の研修等へ参加をしている。 ・不適切な支援、虐待事案が生じた場合、迅速に対応するように体制を整えています。	・継続して、取り組みを実施していく必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	・本人、保護者への説明、同意を行っている。計画に記載し、定期的に見直しを行っている。	・継続して、身体拘束をしないうで済むように、定期的に見直しを行う必要がある。	

※回答数の合計が回収数より少ない項目に関して、不足数は未回答